

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
福島第一原発事故調査に関する小委員会
第24期・第18回議事録

令和2年2月27日

作成 松岡 猛

1. 日時 令和2年2月27日(木) 10:00~12:00
2. 場所 日本学術会議 6階6-C(2)会議室
3. 出席者 松岡委員長、白鳥、関村、柘植、成合、宮野、吉田、矢川、吉村 (越塚、中村、山本、澤田、欠席)
4. 配付資料
 - 資料1 第17回議事録案
 - 資料2_1 提言_原子力規制の課題とあるべき姿、コメント対応
 - 資料2_2 査読番号15_コメント票A
 - 資料2_3 査読番号15_コメント票B
 - 資料3_1 新知見への取り組みの検討経緯
 - 資料3_2 (廃案) 提言新知見への取り組み強化について
 - 資料3_3 提言4報案とりまとめ方針に関する審議事項
 - 資料3_4 新知見への対応としての意見 宮野
 - 資料3_5 新知見の定義について
 - 資料3_6 新知見について
 - 資料4 SDGs関連項目補足表
5. 議事
 - 1) 前回議事録の確認(資料1)
 - ◎ 承認された。
 - 2) 規制の在り方について提言案の第三部査読対応(資料2)
 - ◎ コメント票A.Bに対する回答案、それを盛り込んだ修正案について検討し、基本的に了承された。
 - ◎ 関村委員が中心となり最終的な形に取りまとめ回答として提出することとなった。
 - ◎ スケジュール
 - 早ければ4月の幹事会、あるいは5月の幹事会にて説明することとなる。
 - 3) 新規知見の在り方に関して(資料3)
 - ◎ 津波に関する新知見の取り入れ方を例とした一般論として提言をまとめる方向で合意した。
 - ◎ 知見とは何か、新知見とは何かの定義を明確にしてはとの議論を持ったが、入り

口である定義にこだわってもうまく進まないのではないかとの意見が出された。

- ◎ 新知見にも、知っていたもの、知らなかったものの二種類がある。新知見を見過ぎた誤りが問題である。
- ◎ もやっとした知見、必ずしも統合できないもの、エビデンスがしっかりしていないもの、これらでも重要な知見があるので、それを社会にどう取り入れるかが大事ではないか。

4) シンポジウムについて

- ◎ 新知見の議論が大事であることから、シンポジウムを開催することとなった。
- ◎ 開催日 9月10日(木)午後、日本学術会議講堂
- ◎ タイトルとしては、魅力あるものとした。危機管理、科学技術イノベーションとも結びつけ、サブタイトルに「新知見」の語を入れてはとの意見が出た。
- ◎ 関係者も呼び、広く意見を求めるシンポジウムとしたい。

5) SDGs との関連説明について (資料4)

- ◎ 5月に出した報告「我が国の原子力発電の津波対策」について SDGs との関連を学術会議 HP 上で説明する必要があるので、説明文を矢川委員、松岡委員長で作成した旨報告があった。

次回 4月3日(金)10:00~12:00 と設定した。

以上